



OUHS
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES
スポーツ

大伸大

発行責任者
大阪体育大学広報室
室長 大坪 康巳
編集長 和泉 かよ子
大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
電話 (072) 453-7021
FAX (072) 453-8818
協力=教育後援会・学友会

第34号



新HCに安藤栄次 元日本代表が就任

ヘッドコーチ
ラグビー
新HCに安藤栄次
元日本代表が就任

今春、大阪体育大学のラグビー部は新HC(ヘッドコーチ)を迎えた。三菱重工相模原ダイナボアーズでアシスタントコーチを務めていた安藤栄次・元日本代表(38)だ。新型コロナウイルス禍によるクラブ活動休止が明けた6月末、安藤・新HCは「選手らはみんなポジティブだし、とても素直で真面目な印象を持った。指導するのが楽しみ」とワクワク感を語った。



安藤栄次・新HC

安藤HCは埼玉県出身。早稲田大学卒。現役時代のポジションはスタンドオフで、早大では大学選手権優勝を2度経験している。大学卒業し、2005年にNECグリーンロケッツに入部、2012年からは三菱重工相模原ダイナボアーズでプレーした。日本代表時代に国際試合に出場したキャップ数は13。2014年に現役を引退し、2015年から三菱重工相模原のアシスタントコーチに。

安藤HCは「学生時代に強い早稲田大学でウィニングカルチャーを見てきた。三菱重工相模原のアシスタントコーチとしては、トップリーグに昇格する苦労も味わった。コーチとしての能力、経験、そして人を惹きつける人間的な魅力。申し分のない人材だと思う」と評す。

久門ディレクターは「学生時代は強い早稲田大学でウィニングカルチャーを見てきた。三菱重工相模原のアシスタントコーチとしては、トップリーグに昇格する苦労も味わった。コーチとしての能力、経験、そして人を惹きつける人間的な魅力。申し分のない人材だと思う」と評す。

久門ディレクターは「学生時代に強い早稲田大学でウィニングカルチャーを見てきた。三菱重工相模原のアシスタントコーチとしては、トップリーグに昇格する苦労も味わった。コーチとしての能力、経験、そして人を惹きつける人間的な魅力。申し分のない人材だと思う」と評す。

久門ディレクターは「学生時代に強い早稲田大学でウィニングカルチャーを見てきた。三菱重工相模原のアシスタントコーチとしては、トップリーグに昇格する苦労も味わった。コーチとしての能力、経験、そして人を惹きつける人間的な魅力。申し分のない人材だと思う」と評す。

久門ディレクターは「学生時代に強い早稲田大学でウィニングカルチャーを見てきた。三菱重工相模原のアシスタントコーチとしては、トップリーグに昇格する苦労も味わった。コーチとしての能力、経験、そして人を惹きつける人間的な魅力。申し分のない人材だと思う」と評す。

コーチ陣の打ち合わせ



選手との信頼関係を大切に



副キャプテンの森幹紘(体育4年)は「体格的に留學生の存在はチームにとって心強い」と言い、「Aリーグ復帰に向けて運動量は負けないチームになりたい」と話す。安藤・新HCについて「練習の指示が具体的に『走れ』ではなく『90分走れるようになれ』と数字を挙げて言ってくれる。なぜこの練習をするのか納得できる。気持ちを持って取り組める」と大学最後の年を燃焼させる意気込みを語った。

コロナに負けるな！～卒業生からの応援メッセージ～

コロナに負けるな！

北國銀行 ハンドボール部

田邊夕貴選手

スポーツ教育学科卒業

44期



仲間と励まし合って

コロナ禍を乗り越える

写真は田邊夕貴選手提供

ハンドボール女子の日本代表メンバー、北國銀行（石川県）の田邊夕貴選手は、新型コロナウイルス禍で体がなまらないようなZOOMで「家でできるトレーニング」を公開し、体幹やハムストリングを鍛えるメニューを紹介した。クラブ活動休止中、体がムズムズしている大阪体育大学の学生たちには「家の中でできるトレーニングはどうしても限られるので、場所を考えながらも外も有効に使えると良いなと思います」とアドバイスももらった。

大阪体育大学のハンドボール部で4年生の時に、インカレ優勝を経験した。昨秋に史上初のインカレ7連覇を達成した後輩たちに「ものすごく励まされた。後輩がこんな偉業を達成したのだから、私も頑張らなきゃ」と感謝する。

休日は近くのスーパー銭湯に行ったり、京都の実家に行ったり、

一方、自身が出場するはずだった今夏の東京オリンピックは延期に。覚悟はしていたものの、延期が公表された時はやはりショックだった。来年、開催されたとしても、同じメンバーが出られるとは限らない。より厳しい状況になったと思ったと振り返る。その後は、「あと1年、準備期間が増えた」とプラスにとらえるよう気持ちを切り替えたという。

北國銀行のハンドボール部は20人全員が寮生活。寝食を共にする家族のようなこの関係も新型コロナウイルス禍ではかなり変わった。いつも食堂でみんな一緒に食事していたのが、各自が自室に持ち帰って食べることに。入浴もこれまででは好きな時間にできていたが、グループ分けして時間をずらし、浴場に大勢が集まらないようにした。寮と同じ敷地内にある体育館での練習は、20人を3グループに分かれて行った。ハンドボールは接触スポーツなので、通常の練習ができず、寮と同じ敷地内になる体育館での練習



室内トレーニングの様子

インカレ連覇を重ねる後輩たちに「元氣もらっている」

いつ元通りの練習に戻れるのか、いつ試合ができるのか、まだ先が見えなかった時、田邊さんは「今は鍛錬期だと思っている。自分を鍛える期間なんだとみんなで励まし合っていた。2014年から約2年所属したハンガリーのハンドボールチームの仲間から「日本はどう？ 大丈夫？」と連絡が来た。ハンガ

感染症は人と人との接触を断つ。それによって、誰しも抱える孤立感や閉塞感を乗り越えるのは、人間同士の「励まし合い」。田邊選手はそれを実践していた。

インカレ優勝に向かって練習再開

ハンドボール男子

下川真良監督は「今年は期待が持てる1年生がたくさん入ったんです」と喜ぶ。昨年度、全国高校選抜大会、インターハイ、国体のすべて優勝して高校3冠を達成した香川

中央高校（高松市）のハンドボール部が、8人も大阪体育大学に入学したという。選手層はますます厚みが増し、活躍を早めるのは間違いない。劇的なアベック優勝を果たした

1年生に優勝経験者そろそろ



「ゴールキーパーの堀田陽大（体育4年）」
「19年開国学生」ハンドボール部リーグ戦

大体大の持ち味である強固なディフェンスの要となるのは、ゴールキーパーの堀田陽大（体育4年）。1年生の時から試合に出場しており、昨年の優勝にも大きく貢献した大体大の「守護神」だ。下



川監督は「堀田を中心に守りを固め、攻撃面では相手の守備が整う前までのほうろびを突く電光石火を目指す。走れるチームにしたい」と意気込みを語った。

女王軍団始動
目指せインカレ8連覇

ハンドボール女子

昨年11月、全日本学生ハンドボール選手権大会（インカレ）で連覇を達成した大阪体育大学のハンドボール部女子。今年度も連覇の期待がかかる女子チームも、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためスポーツ活動停止の2カ月半は、チーム練習ができなかった。選手らはウエイトトレーニングのコーチが作成した動画を共有し、ポラリスを購入して自宅でトレーニングしていた。

例年なら4〜5月は、関西学生ハンドボール春季リーグが行われる。大体大が圧倒的な強さを見せつけたこの春の舞台も今年はなかった。楠本監督は「春季リーグは1年生を積極的に起用して、9試合のうち3回ぐらいは出場させている。新人部員はユニフォームを着て戦えるのが励みになるし、上級生にも刺激を与える。チームのモチベーションを高めていく場所だったと説明。1年生が女王軍団の一員として自他共に認められる機会がなくなり、どうやってチーム一丸のまとまりを作り出すか、今年度ならではの課題が生まれている。

新型コロナウイルスの感染収束状況を見ながらのスポーツ活動再開なので、当初は



主将の相澤菜月（体育4年）は「外出自粛中は一日中、誰ともしゃべらない日もあって、この先どうなるのかどうチーム作りをしないといけないのか不安に思っていた」と言い、ソーシャルディスタンスを確保した



主将の相澤菜月（体育4年）



主将の相澤菜月（体育4年）

キャッチボールもできなかったが、6月半ばにはボールの使用が許可された。エースの中山佳穂は「やっぱり楽しいです」と笑顔。下宿に集めて、外でのトレーニングは駐車場だった。コンクリートの土のトレーニングだったので、体育館の床の感覚がうれしい。体育館でボールを投げられるのって、こんなに楽しいことだったんですね。3年生の時からエースの重任を背負う中山は、練習量でフレッシャーと不安を乗り越えてきたという。練習不足を取り戻すエースの努力がまた始まる。

今年のチームは9年生時から試合に出場してきた経験豊富な4年生が多く、素晴らしいチームと評する。インカレ8連覇を決して夢ではない。秋に本番があるのを信じて、女王軍団が動き出した。

※クラブ活動の様子は7月9日までに取材したものです



陸上競技

自粛中に 頭のトレーニング できたかな？

栗山佳也部長

6月に入り、大阪体育大学の陸上競技場に選手たちの姿が戻った。陸上は個人競技もあり、身体との接点がないのでコンタクトスポーツに比べれば、大きな制限は受けていない。練習再開を待ちかねていた選手たちからは白い歯がこぼれ、手洗いの励行や新型コロナウイルスの感染予防策を取りながら、競技の感覚を取り戻している。

今年度はコロナ禍で春のインカレは中止。秋は9月10日、新潟市のデンカビッグスワンスタジアムで第89回日本学生陸上競技対校選手権大会(インカレ)が開催された。栗山部長は「去年までなら参加できていたはずの選手が出てくる。インカレを目標にトレーニングして」と選



硬式野球
男子

秋のリーグ戦で優勝目標 昨春優勝の投手陣は健在

「基本に忠実に」と中野監督

昨年度春は、「阪神大学野球連盟」の春季リーグ戦(1部)で優勝し、6月は神宮球場(東京都)で全日本大学選手権大会を戦った。今年度は外出自粛で始まり、6月は神宮球場で始まり、ようやく練習が再開できたという状況。しかし、グラウンドに集まった選手は、昨年の春季リーグ戦で優勝した投手陣が健在。昨年度の春季リーグ戦で優勝した投手陣が健在。昨年度の春季リーグ戦で優勝した投手陣が健在。

上位集団のグループの練習風景を見ながら「やる気を感じられない選手はBグループに落とす」と中野監督は厳しく指導している。昨年度は、春は優勝したが、秋のリーグ戦は最後まで優勝争いからみながら4位に終わった。春は優勝したが、秋のリーグ戦は最後まで優勝争いからみながら4位に終わった。



主将の市成啓悟(体育3年)



水上競技

「水の子」たちプールに復帰 更衣室の3密を回避

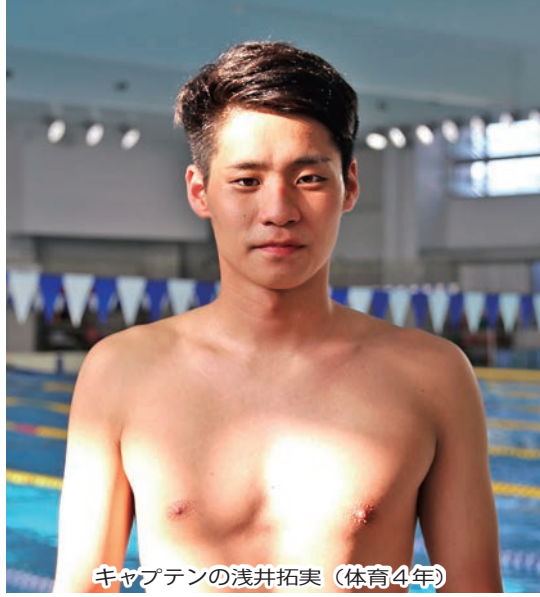
2カ月半の空白で「水が重い」

夏休み前に競泳はプールに泳いでいる際に感染の危険が高くないが、更衣室が3密になり、選手たちはプールに復帰する。更衣室の3密を回避するため、選手たちはプールに復帰する。

今年度、チームを束ねるキャプテンになった浅井は、オリンピック選考会がなくなり、4月と5月は全く泳いでいないという。クラブ活動の再開が久しぶりでプールに入ると、水が重かったと苦しい。関西インカレや全日本インカレの成績をチーム目標にしているが、今後、競技大会が開催されるのかどうかわからない状況で、浅井は、別の目標を掲げる必要もあるという。気持ちが切れてしまっている選手にはまたスイッチを入れて、みんなが一致団結できるようにしたいと話す。

クラブ休止中は、下宿に残っていた選手もいれば、実家に戻った選手も。各自、筋力トレーニングをしたり、スイミングスクールのプールを使わせてもらっていた。

新型コロナウイルスの感染拡大がなければ、4月には東京オリンピック競技大会代表選手選考会が開かれるはずだった。大阪体育大学の水上競技部からは、浅井拓実(体育4年)と森脇裕太(体育3年)が平泳ぎと仰泳ぎを主としていた。明確な目標を持って練習してきた選手らのモチベーションをこれから高めるべく、チームを束ねる必要があるという。浅井は、気持ちを切れてしまっている選手にはまたスイッチを入れて、みんなが一致団結できるようにしたいと話す。



キャプテンの浅井拓実(体育4年)



コロナに負けるな！～卒業生からの応援メッセージ～



新型コロナウイルスの感染拡大が国内で最初に起こった北海道。今春、大阪体育大学を卒業し、Ｊ１リーグの北海道コンサドーレ札幌に加入した田中駿汰選手は、政府の緊急事態宣言下にあった時のことを「思う存分、練習ができてなくなってしまうけれど、やれることをやるしかないと思ってた。昼まで寝たりせず、生活のリズムを守ることを心掛けていた」と話す。練習は１グループ６人に分かれ、グラウンドを１時間半ずつ使用。５月半ばになつてようやくクラブハウス内のトレーニングジムが使えるようになったが、選手が密集しないよう使用時間は細かく区切られた。選手らは寮生活なので感染リスクもあり、毎日、検温し、手洗いとうがいは欠かさないという。

今夏のオリンピック延期については、「ずっとオリンピックに出場するのを目標にしていたので延期はショックだった」と正直な気持ちを吐露。

しかし、「自分をレベラアツプする期間が１年でできた」と考えるようにし、次の目標を「リーグ戦でスタメンに出る」と見据えてモチベーションに「４年生でプロを

のかしこから自分で考えて行動した」と助言した。

自身の気持ちにも変化があった。「練習や試合や、こ

**支えてく
ピッチで**

れまで普通にできていたことが、実はとても幸せなことだったのだと感じる。サポーターやパートナー企業や様々な人々に支えられて僕はサツ

支えてくれる人々に感謝
ピッチで恩返しを！

いう意味では無観客は寂しいけれど、試合に集中できるという利点もある。何より、試合ができることに感謝したい」と話す。新型コロナウイルスの後輩たちを「サッカーがで

ビューを果たし、同18日の第5節バガルタ仙台戦ではリードされた後半開始から出場、終了間際に決めた貴重な同点弾がプロ初ゴールとなった。

きるのに当たり前のことじゃない。サッカー部が存在していること自体が、本当にいろんな人に支えられているからまた試合ができるようになった時、ピッチで恩返しができるように頑張つて！」と激励

×

×

×

×

コロナに負けるな！

風通しの良さを大切に 2部昇格を目指す

[illegible]

大阪体育大学のアメリカンフットボール部は、1〜4部ある関西学生リーグの中で、2部と3部を行ったり来たりし、現在は3部。新型コロナウイルスで春のリーグ戦はなくなり、秋のリーグ戦は9月から、2部昇格を目標に1年生から4年生まで一丸になる

★アスリートガイダンス★

新入生に 行動規範を説明



文武両道の学生生活を

新型コロナウイルスの影響で2020年度は、パソコンやスマートフォンを使った遠隔授業でスタートし、学生はキャンパスに入ることすらできない状況が続いたが、感染の収束を見計らい6月18日から徐々に学生の入構が始まった。まず1、4年生から入構させることとし、1年生には初日、学生生活全般についてガイダンスが行われた。

クラブ活動のガイダンスでは、スポーツ局のスポーツアドミニストレーター、姫路文博・係長が「太体大アスリートは競技力の高さだけでなく、優れた教養と人格を兼ね備えることを目指している」と述べ、「大阪体育大学の教育方針は文武両道が基本。勉学とクラブ活動を両立

させてください」と激励した。

年間の取得単位が 15 単位未満だと翌年前期の対外試合は出場停止になるなど、クラブ活動に熱中するあまり勉学をおろそかにすれば、クラブ活動にも影響が出る厳格なルールの説明も行われた。

姫路係長は、勉強については授業時間外に補習できる「学習支援室」もあり「個別指導してくれるスタッフがいる。勉強に遅れを感じたら積極的に活用してほしい」と呼び掛けた。

新型コロナウイルス対策として、学生はマスクを着けたうえで座席を1席ずつ空けて着座。講師はフェイスシールドを着用した。



コロナに負けるな！～卒業生からの応援メッセージ～

コロナに負けるな！

プロバスケットボールBリーグ 西宮ストークス

岸田篤生選手

体育学部
スポーツ教育学科卒

50期



写真は西宮ストークス提供

インスタでファンと交流 再開に向け焦らず準備しよう

鳥取東高校から大阪体育大学に進学し、プロ選手になる夢を果たした岸田篤生選手。バスケットボール・Bリーグ日取材時点。先が見えないで、京都ハンナリーズを経て、現在は西宮ストークス(兵庫)に所属する。新型コロナウィルスの影響下では、チーム全体の練習も行えず、外たという。

「新型コロナウィルスの影響で、チーム全体の練習も行えず今後のチームの活動も定まらないだけでなく、練習場所の確保も目途が立たない状況だった」と話す。選手は各自、自宅でのトレーニングや、人の少ない時間を選んでランニングを行ったりしていたという。



母校、大田でもクラブ活動は長らく休止し、6月から徐々に再開したものの、3密を避けるため、しばらく練習は大幅に制限されていた。岸田選手は後輩たちに「思い切り練習もできず、大会は次々に中止になり、とても不安を感じていると思うが、仕方ない」と割り切ることも大切と呼び掛ける。「感染症とは違いますが、私は大学4年生の時にケガをして、プレーができない、試合に出られない時期を過ごしたことがある。

仕方ないと割り切ること大切



バスケットボール

男子 インカレベスト8を目標に！ 女子 今年こそ学生チャンピオン！



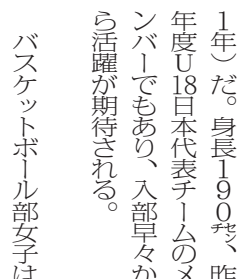
バスケットボール部男子は、新型コロナウィルスの影響で活動自粛中は、3クループに分かれてリモートミーティングを行い、トレーニング内容を報告し合っていた。主将の藤本巧太(体育4年)は「みんなの顔を見て練習ができるようになったのは楽しくてうれい反面、最初は感染が怖くて出られなかったという不安があった」と話す。

昨年度は12月の全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)が終わって以降、「自立したチームになる」を合言葉に、練習メニューを選手で考えたり、選手同士で教えあうのを心がけてきた。比嘉監督に対しても指示に納得だけでなく、疑問点は積極的に質問するようにしていたという。

身長の高い選手が少ないのを補う大型新人も入部した。昨年度、高校バスケットインカレ、ウインターカップ、国体で優勝し3冠を達成した福岡第一高校の仲田泰利(体育1年)だ。身長190センチ、昨年度U18日本代表チームのメンバーでもあり、入部早々から活躍が期待される。



主将の藤本巧太(体育4年)



仲田泰利(体育1年)



バレーボール

男子 関西リーグ1部でさらに上へ 女子 1部復帰に向けてチーム一丸

7月に入り、バレーボールの練習ができるようになった。バレーボール部。新型コロナウィルスの影響で例年4、5月に開催されていた関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦がなくなり、次は秋季リーグ戦。長年バレーから遠ざかっていた選手らは、感覚を取り戻そうと熱心な練習を展開している。

昨年のバレーボール部男子は、関西大学秋季リーグ戦の開戦順位は1部9位(12チーム制)。上位を目指し、1部9位を死守するにとどまらず、主将の藤原柳之介(体育4年)は、練習自粛期間中は、筋力トレーニングや走り込みなどで体力を落さないよう部員に伝えていたと話す。久しぶりにバレーを扱うと、上手に手に当たらないという調子が狂った。バレーボールに体を慣れさせ、練習メニューを濃くして遅れを取り戻すよう頑張っていくという。

関西大学リーグの1部でさらに上位を目指すのが今年の目標。昨年は2、3年生主体のチームだったので、今年は試合経験者が多く残りチームは安定感を増した。上位にステップアップする手ごたえは十分ある。さらにバレーボールの強豪高身長190センチの新入部員を迎えて、期待のルキの活躍も楽しんだ。

バレーボール部女子は、開幕順位を10位(12チーム制)で迎えた昨年の関西大学秋季リーグ戦で、10試合を全敗して2部に降格した。今年度は苦い経験を生かしてチーム作りを取り組み、1部復帰を目指すチャレンジの年だ。

新型コロナウィルスで練習自粛中、部員はオンラインミーティングをするなどしてコミュニケーションを取っていた。主将の中川美優(体育4年)は「特に1年生は、練習ができるようになった時、チームで励みあっている姿が、デモ通話で顔をみながら話をする姿に心掛けていた」と言う。

昨年度は「身長が足りない」のが課題で、中川主将は「その分パワーと筋力で補ってきた」と話す。今年度は身長の高い新入部員を迎えることができ、高さというアドバンテージで戦えるようになった。試合出場メンバーも上級生だけでなく、1年生から4年生まで全員でチーム作りをしていくという。



コロナに負けるな！～卒業生からの応援メッセージ～

コロナに負けるな！

J3リーグ AC長野パルセイロ

マーケティング推進部長 森脇豊一郎

体育学部 26期

大阪体育大学大学院修士課程生涯スポーツ学修了(1997年3月)



コロナ禍でJリーグの経営も大打撃 「2つのクラブも倒産させない」

「新型コロナウイルス禍でJリーグもすべてのクラブで経営に大きな影響が出ています。確かに、厳しい状況ではあるのですが、与えられた環境で常に最善を尽くすのがプロフェッショナルだと思っています」

こう話すのは、AC長野パルセイロの所属するJ3リーグがようやく開幕を待たしたのは6月27日。それまで選手たちは、各自でトレーニングを追い、卒業後は、サンフレッチェ広島やV・ファーレン長崎でクラブスタッフを務め、今のポジションに至る。

「サッカーだけでなく、あらゆるプロスポーツが影響を受けている。今できることをするしかない」と困難に立ち向かう決意を固めながらも、「会費を集めて運営している小さな街クラブまで存続の危機に陥っているという話を聞くと胸が痛む」と話す。

学生にとっては 貴重な成長のチャンス

チームの経営も支えなくてはならない。「試合の入場料収入を得られなくなっただけでなく、スポンサーも収益悪化している。金融機関に融資交渉するなど、今、Jリーグの運営関係者は『1クラブも倒産させない』という思いで頑張っている。困難を前に森脇部長のサッカー愛は募るばかりだ」。

大学のクラブ活動も休止となり、スポーツに取り組みにくくても取り組めずに関わり

「ウィルス禍に見舞われた人類が、この事態をどう乗り切るのか、正解は一つではない。学校教育、特に義務教育では、総じて教科書で学ぶ内容は正解が一つしかない場合が多い。しかし、社会に出て取り組む事業は、必ずしも正



報道陣とも距離をとって取材を受ける



「ウィルス禍に見舞われた人類が、この事態をどう乗り切るのか、正解は一つではない。学校教育、特に義務教育では、総じて教科書で学ぶ内容は正解が一つしかない場合が多い。しかし、社会に出て取り組む事業は、必ずしも正

剣道

剣道場に剣士らの声響く 「剣道ができる事に感謝」

2カ月前、静まり返っていた大阪体育大学の剣道場に6月、再び剣士の声と竹刀の音が響き渡った。

2カ月前、静まり返っていた大阪体育大学の剣道場に6月、再び剣士の声と竹刀の音が響き渡った。

選手らの面には口元にマスクが張り付いてある。さらに、面をかぶる際には、マスクを着けるか手ぐいすで

面にはマウスガード

とは、二重ガードで息を吐き、面をかぶる際には、マスクを着けるか手ぐいすで



の指導員は、福永から「体育4年」は不織布のマスクより手ぬぐいの方が息は楽ですと、汗をききコメント。活動自粛中、21人の女子部員は3グループに分かれ、オンラインミーティングを実施。監督やコーチからの自主練習のアドバイスも共有していた。対人の稽古ができないため、筋トレ、素振り、ランニングで基礎体力を落とさないようにし、試合はイメージトレーニングをしていたという。今後は、剣道場に立てる感謝を素直にしている。ずっと靴を履いてのトレーニングだったの」と活動再開の喜びを語る。



体操競技

男子1部返り咲きをあきらめない！ 女子支えに演技で感謝の意を！

大阪体育大学体操競技部は、昨年8月の全日本学生体操選手権大会、全日本インカレで男子1部、女子9位になり、男女ともに1部から2部に、1部返り咲きを目指して、秋冬にトレーニングを積み、今年度は新型コロナウイルスの影響で春の関西インカレ、西日本インカレは中止になった。例年は夏に行われる全日本インカレは10月に開催予定であり、選手らは

体操競技部男子の佐藤寿治・特別強化コーチは「2カ月前のクラブ活動休止の後、6月に選手と再会した時は、みんな戻って来ると言うので、筋肉が落ちていた。手のマメもすっかり消えていたと話す。跳馬、吊り輪、平行棒など、男子6種類の器具を使って、2

今年10月の全日本インカレは、予選となる西日本インカレが中止になったため、参加基準がまだはっきり決まていない。女子の田原監督は「コロナ禍でも練習できるような環境を整えたい」と話している。女子の田原監督は「コロナ禍でも練習できるような環境を整えたい」と話している。



「新型コロナウイルスという異例の事態に見舞われたが、みんな前向きな気持ちで全く変わっていない」と話すのは、女子の田原監督。大体大体操競技部女子は総勢14人の少人数精鋭。クラブ活動休止中は、各自、地元で練習でき



コロナに負けるな！～卒業生からの応援メッセージ～

コロナに負けるな！

パラリンピックメダリスト

大阪体育大学客員准教授 山本 篤選手

大阪体育大学大学院博士前期課程スポーツ科学修了(2012年3月)

新日本住設所 所属

体育学部 40期

東京パラリンピック延期は良い判断 モチベーションは変わらない

日本を代表するパラリンピアン(1人として、北京パラリンピックから3大会連続出場を果たした山本篤選手。高校2年の時にバイク事故で左足を失った山本選手は、義足アスリートの先駆者としてまさに時代を駆け抜けてきた。

2016年5月、日本パラリンピックとして精神的に活動して、陸上選手権の走り幅跳びで、

当時の世界記録を更新。その年8月のリオデジャネイロパラリンピックでは、走り幅跳びで銀メダル、4x100mリレーで銅メダルを獲得する。1年延期されたが、山本選手は「モチベーションは変わらない」とも下がっていない。とくはパラリンピック(冬季)には、中国・武漢での爆発的な感染拡大が世界的なスノーボード競技のシーズンになった時から、「東京オリンピックの開催は厳しい」と予想していた。「オリンピックは世界的イベントな

のだから、選手だけでなく、サポーターや観客の健康を守るのも大切。観る側、観られる側双方がベストな状態で開くべきなので、延期が決まった時は良い判断だと思っただけ。冷静に受け止めている。努力している。1来年の東京パラリンピック本番でコロナ禍の憂鬱な空気を吹き飛ばすパフォーマンスをしたい」と山本選手の口から出て来る言葉は、どこまでも力強く、前向きだ。



強く、しなやかに、
時代を駆け抜ける

写真は山本篤選手提供

感覚を取り戻せ



レスリング

イメージトレーニングで タックル！

新型コロナウイルスの感染防止対策が必須になったことで、最も影響を受けたのは格闘技。相手と組み合う練習ができない。6月中旬から練習再開したレスリング部では、選手らはマットの上でソーシャルディスタンスを確保し、各自が、倒れる、起き上がるという動きを繰り返して、タックルしてまた相手を押しつぶし、相手が起き上がったところをタックルで倒す技の訓練である。組み合うことができない制限された状況ながらも、よりよいイメージトレーニングができるようになった。と、マットの上の選手からは笑みがこぼれた。

練習場には「イメージしろ！イメージしろ！」と声が飛ぶ。姫路文博コナススポーツ局長は「対戦相手がいらないと感覚が鈍る」と話す。対戦相手の腕をつかんで、自分の方に引っ張るという行為ひとつにしても、独特の感覚を身に付けていないと失敗する。という。一瞬に腕を引っ張るだけでは手が滑ってしまふ。レスリングでは相手の腕の肘のあたりにある骨をつかみ、自分の手の指に相手の骨を引っかけて滑らないようにする。相手の骨格を利用するわけだ」と姫路コナス。このように「身体感覚」を研ぎ澄まさせては、「タックル」がイメージできるといふ。

レスリング部は今年度、1年生3人を新入部員に迎え、総勢6人に。外出自粛期間中、全員が顔を合わせたのはリモート1度だけ。体育館での練習再開し主将の前園深(体育3年)は「個人練習はなかなかフィジションが上がる。久しぶりに部員が集まると、声を出してトレーニングするやっぱワクワク感がある」と話す。春の試合は無くなり、秋の西日本リレー戦(2部)に向けて「3位以内の入賞を目指す」と目標を掲げる。このリレー戦は計7試合を戦うが、昨年度は試合に出られる部員が4人しかいなかった。3試合は不戦敗だった。期待の持てる1年生たちが加わって6人になった今年、入賞は決して夢ではない。



主将の前園深(体育3年)

関西学生選手権に向けて しっかり汗のかける体になろう

6月20日の柔道場。また組み合うことはできず、選手は距離を取って基礎的なトレーニングをしていく。選手同士が接触する練習は、全日本柔道連盟のガイドラインに沿って段階的に進めていく予定でこの後は「打ち込み」「投げ込み」に入り、次の段階で「乱取り」ができるようになる。

例年は8月に行われている関西学生柔道体重別選手権大会が、今年は11月遅れで9月に行われることになった。新型コロナウイルスの影響で、どの大学もクラブ活動を休止したため、選手の準備期間を確保して大会開催がずれ込んだ。大阪体育大学柔道部は、

活動自粛期間中、女子はZOOMを使ったトレーニングでトレーニングの状況や体重の増減を報告していたが、松田基子監督は「個人練習なのでどうしても差が出てしまふし、通常の稽古と同じ強度ではできない。練習量と食事量のバランスが崩れ、食事がオーバー気味になるので、どうも体重が増えている選手が多いですね」と選手の変化に目を光らせる。

男子は今年度、新入部員にインターハイで100kg級の出場経験者、水田俊介(体育1年)を迎えた。生田秀和監督は「なかなか100kg級の選手は入っていない」と上級生にも刺激を与える存在になるのを期待する。



柔道



3月半ばからクラブ活動が休止になり長い自宅待機が続いた。生田監督は「稽古の量が減ると汗が出づらくなり、熱中症の危険が高まる。まずはしっかり汗がかけられる体を整える必要がある」と話す。

指導者は例年以上に選手への体調管理に気を配る夏になりそう。

サッカー部 林尚輝

来春
鹿島アントラーズ
入団内定

大阪体育大学サッカー部の林尚輝（体育4年）が6月、Jリーグ、J1の鹿島アントラーズに入団が内定した。林は「歴史と伝統、そして素晴らしいサポーターがいるクラブの一員になれることを本当にうれしく思います。幼い頃からの夢である『夢や希望を与えられる選手』になるためのスタートラインに立つことができました。今まで支えてくださった人々への感謝の気持ちを忘れず、1日でも早く鹿島アントラーズの勝利に貢献できる選手になれるよう日々精進します」とコメントした。

感謝の気持ち忘れない 文武両道の大体大アスリート

林はサッカー部での活躍だけでなく、学業面でも3年連続で体育学部上位5人の「学業優秀者」に入る頭脳派でもある。松尾元太監督は「学業に対しても高い向上心を持ち、専門競技においても志を持続して質の追求を続けている。大学生活で大きく飛躍した選手」と評する。

大阪府堺市出身の林は中学生の時、「自分には忍耐強さが足りない」と考え、親元を離れて島根県松江市の立正大学松南高校に進学。3年間の寮生活で「あきらめずにコツコツと努力することができるようになった」と話す。忍耐力を身に付けた後は、「もっとメンタルを鍛えたい」と大阪体育大学に入学し、「スポーツ心理学やスポーツ科学を学んだのは、メンタル面の成長につながった」と自己分析する。

「文武両道」を掲げる大体大アスリートを体現する林。来春、鹿島アントラーズに羽ばたく。



約3カ月クラブ停止…

スポーツ活動再開に向け 段階的練習計画策定

6月始動

7月は12日間中断…

大胆かつ細心 これが大体大流!!

新型コロナウイルスの感染拡大で、大阪体育大学では3月中旬からクラブ活動を停止し、学内施設の使用も禁止した。4月7日に発令された国の緊急事態宣言が5月21日に大阪府も解除になり、大体大は6月からスポーツ活動を再開。密閉、密接、密集の3密を避けるためトレーニング内容は制限付きながらも、6月にクラブのスポーツ活動を始めるのは全国の大学の中でも先駆けだった。

徐々に練習内容の制限が緩和され正常に戻りつつあった7月10日、学生2人の新型コロナウイルス感染が判明。学生の入構を禁止し、クラブ活動も中断した。感染リスクを最大限に排除する期間を設けることとし、7月22日まで入構禁止を継続。クラブ指導者と安全対策を再確認する会議を行ったうえで、7月23日にクラブ活動の再開となった。



「各競技の専門家がそろって体育大学だからこそ、スポーツ活動が再開できた」と話す神崎浩・体育学部教授

各競技の専門家がそろって

新型コロナウイルス対策本部でクラブ関係担当の責任者、神崎浩・体育学部教授は6月にスポーツ活動を再開したところについて「各競技に専門の先生がいるのでリスク管理ができて判断した」と話す。大学は感染予防のための大枠の方針を決定し、具体的な練習方法は各指導者に任せることができたという。「これだけの競技で専門家をそろえているのは体育大学ならでは。指導者の層の厚さが大きかった」と神崎教授。

学長提案 学生の施設使用

「運動したい学生に学内のスポーツ施設を使わせては？」。新型コロナウイルス対策本部で、岩上安孝学長から提案があったのは、5月の大型連休明けのこと。当時は、授業もすべて遠隔授業で、学生はキャンパスに入ることすらできなかった。トレーニング場所がなく、大学周辺をランニングする学生の姿を見て、岩上学長は学内の体育館やグラウンドの使用を認めてはどうかと考えたのだ。

いち早く海外の情報収集

6月1日から、まずは「スポーツ施設の段階的使用」と位置づけ、各クラブ単位で人数や練習内容を絞ってスタート。最初はボール使用も不可とした。徐々に制限を緩めつつ、6月19日から正式に「クラブ活動」となった。全国でも早い段階でのクラブ活動再開だった。

大学スポーツの振興を統括するUNIVAS（ユニバス、一般社団法人大学スポーツ協会、Japan Association for University Athletics and Sports）を構成している。大体大は、6月から、独自にこうした指針の作成作業に着手。「競技や種目による感染リスクの高低に配慮し、感染予防対策をとってリスクの低い練習を開始」「リ

学生感染判明で12日間中断

遠隔授業から対面授業への切り替えも学年ごとに段階的に進められ、7月に入りようやく全学年がキャンパスに顔をそろえた。クラブ活動も本格化していたところ、7月10日、学生2人が新型コロナウイルスのPCR検査で陽性反応が出たことが分かった。保健所は「学内で感染した可能性は極めて低い」との見解だったが、念のため20日まで学生の入構を禁止して遠隔授業に戻し、クラブ活動も同日まで停止した。

春夏秋冬のうち

「春」がすっぱりと抜けてしまった

学生アスリートたち。

誰も経験したことがない

「夏」に挑む。

の指導者からは活動の早期再開を求める声が出たため、大学としては「感染リスクを避ける練習方法」について競技ごとに計画書の提出を求めた。その後、競技大会は軒並み中止、夏の東京オリンピックまで延期になり、クラブ活動の早期再開どころではなかったが、5月に入り再開を検討するにあたっては、指導者らが作成していた感染予防の計画書がベースになった。

グが良かった。体育大学の特徴として実技の授業が多く、遠隔授業には限界があり、6月19日から通常の対面授業に切り替えていく方針は決まっていた。少し先に課外のスポーツ活動を始めておくべく、対面授業での感染予防対策に役に立つ材料が集まることも期待できた。

スクの高いスポーツは時間をかけて段階的に再開。スポーツ種目ごとに段階的再開計画を策定し、必要に応じて練習計画を練り、クラブ活動再開に備えてきた。

神崎教授は「クラブ関係担当の事務局であるスポーツ局（大体大のスポーツ振興ならびに運動クラブを統括する部署）が、いち早くNCAA（全米大学体育協会）をはじめとする海外のガイドラインを情報収集し、先進事例を参考にできた。こういう時は、どんどん進もうとする人、ちょっと待てとブレーキをかける人、どちらも必要。そのバランスが取れた進め方ができた」と感謝する。

神崎教授は「学内で感染が広がっているとは考えにくく、他の事例からするとそこまで厳しくすべきかという印象を持たれるかもしれないが、大体大としてはできる限りの安全対策をとるのを最優先にし、過剰な制限、新たな感染者が出ないか状況を見守ることにした。感染リスクが排除された環境でも、クラブ活動はこれまで以上に緊張感を持つ必要がある」と話す。7月23日は、気を引き締め直すスタートになった。